

○エストニア留学 12月報告

ホストマザーの職場の、PARIM PRAKTIKA 2025 という大会で、「糸」と「幻想即興曲」をピアノで演奏させていただきました。途中で少しミスしてしまったのですが、皆さんとても温かく「あなたの演奏がとても好きだった!」「ミスしてもくじけないで最後まで弾けてすごかった!」など、たくさんの方が言ってくれてとても嬉しかったです。その後、ホスト叔父の家で、家族みんなでジンジャーブレッドを作りました。これは、クリスマス前の習慣だそうです。

学校のホールでクリスマスコンサートがあり、ホストブラザーが所属しているような小さな子供たちから大人、お年寄りまで様々な合唱団が民族衣装を着て歌いました。エストニアの民族衣装は地域によって異なり、私は黒に赤の刺繍がついたシャツと縞模様のスカート、真っ赤なストッキングに黒い靴というスタイルでした。小さな子供たちは白いシャツ、男性はスーツのようなものを着ていました。私はあまり内容を理解できませんでしたが、歌の途中では物語を話していたそうです。コンサートの後、キャンディと小さなろうそくをもらいました。また、私の通う音楽学校ではピアノ発表会、学校ではクリスマスコンサートもあり、様々な学年の人達が劇やダンス、リコーダーなどを披露しました。翌日も別の発表が行われ、クリスマスシーズンの行事の多さを感じました。放課後、六時から教室でクラスパーティーがあり、スナックや飲み物、手作りのお菓子やフルーツなどをみんなで持ち寄り9時頃までゲームをしたり楽しみました。19日の学校年内最終日、教室の机の上にはサンタ型のチョコが置かれていました。エルフからだそうです。午後から行われた Play Box というダンスコンテストで、私たちは Tommy cash の X-Ray と Lady Gaga の Born This Way を踊り、三位になってたくさんのみかんをもらいました。

ヨーロッパでは、お正月よりもクリスマスのほうが大きなイベントなので、家族みんなが集まります。12月23日、ホスト祖父母の家に、いとこや兄弟や曾祖母まで、20人くらいでの食事会になりました。食後に、窓を叩く音がするとサンタクロースが現れました。プレゼントをもらうためには何かパフォーマンスをしなければならないそうです。私は3つプレゼントをもらったので、エストニア語で詩を読んだり、ピアノを演奏したりなど三回パフォーマンスをしました。ホストシスターは日本が好きなので日本の曲も歌ってくれました!唐揚げも作りました。以前日本料理店で鶏天丼を食べ、とても美味しい、いつか作りたいねと話したことがあり、何回か天ぷらは食べたことがあるから、聞いたことがない唐揚げを作ってみたい!とのことでした。特にホスト叔父がとても興味を持って手伝ってくれ、ずっと見ていたりしました。唐揚げを揚げるような大きなお鍋がなかったのでエアフライヤーで作りました。炊いてくれたお米と一緒に食べ、皆さんが美味しかったととても好評でした。

大晦日の夜は、クラスメイトや近所の家族が集まり、テーブルに寿司やスープやパイやスナックなどを並べ、それを食べながらボードゲームをしました。年が明ける少し前に広場に行くと、テントやパーティーライトが準備され、音楽が流れていました。花火をしたり、踊ったりする人もいて、街の広告スクリーンはカウントダウンになっており、ライトアップされた車などもありました。年が明けると、あちこちから花火が上がり、どこを向いても花火が見えました。クラスメイトなどと Head uut aastat(あけましておめでとう)といってハグをしました。年越しのときはテーブルの上のものを片付けないという習慣があるそうで料理は片付けませんでした(生ものは片付ける)。また、日本の年越しそばの話をすると、家にあった日本の食材を使って作ってくれました!唐揚げも乗っています。





